カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095-843-3869
FAX 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

世界代表司教会議―シノドスに向けて
〝ともに歩む教会のため〟の歩み始まる

10月10日 教皇による開会ミサ

2023年10月開催の世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会に向けた歩みが始まった。シノドスのテーマは「ともに歩む（＝シノドス的）教会のため―交わり、参加、そして宣教―」。教皇フランシスコは10月9日（土）バチカンのシノドスホールで「考察の集い」を行い、翌10日（日）聖ペトロ大聖堂でシノドス開会ミサをささげられた。このミサをもって同シノドスの始まりが告げられた。

今回のシノドスは、2021年10月から23年10月まで三つの段階（地方教会、大陸・地域、世界代表司教会議）に分かれた、一つの大きな歩みとして行われるという。

教皇は開会ミサの説教の中で、「今日、シノドスの行程を開始するにあたり、わたしたちキリスト教共同体が、神のなさり方に倣い、歴史の中を歩みながら人類のさまざまな出来事を分かち合っているかを、教皇・司教・司祭・修道者・信徒たち、一人ひとりが自問しなければならない」と話され、シノドスにおいて「出会う」「耳を傾ける」「識別する」という三つの態度が重要だと語られた（『バチカン・ニュース』）。

10月17日 長崎教区でも始まる

バチカンでのシノドス開会ミサの後、翌週17日（日）には全世界の教区において開会式が行われた。長崎教区でも14時から浦上教会で高見三明大司教の司式、中村倫明司教と15人の司祭の共同司式によりミサがささげられた。新型コロナウイルス影響下であることを考慮し、ミサの様子は、多くの人々と共有できるようライブ配信された。

ミサの冒頭、高見大司教はシノドス開会式ミサを行う理由について述べた。第2バチカン公会議の後、2～4年に一度行われ、それぞれの時代に応じたテーマが話し合われてきたシノドス。大司教は「（現代社会における）偏見や差別、虐待、貧困、武力紛争、地球環境の危機、コロナウイルスをきっかけとするさまざまな問題など、このような中で『カトリック教会として何をすればよいのか』を皆で考えなければなりません。教皇様は、皆が一緒に力を合わせるために同じ道を〝ともに歩む〟努力をしましょう、と呼び掛けておられます」と説いた。そして、「2年後に行われる第16回シノドス総会は、全世界の信者によって準備され、ある意味で、全世界の信者が参加します。そういう意義のある大きな実りをもたらす会議となるように、全世界で聖霊の恵みを願い聖母のとりなしを願うように」祈りへと招いた。（写真は説教のとき）

12月11日までに教区へ 10の質問 回答提出

バチカンのシノドス事務局は9月上旬、全世界の教会に対して10の質問（上記参照）を含む「準備文書」と「手引書」を送った。日本カトリック司教協議会はこれらの文書を各教区のシノドス担当者（長崎は教区本部事務局長）に送付し、長崎教区本部事務局は10月8日付通達で各小教区に伝えた。

通達によると、10の質問について小教区では「少なくとも小教区評議員全員に配布し、できる限り一緒に集まって回答を考え」、主任司祭がまとめるようにと協力を願っている。その後、各小教区の回答は各地区代表者会議でまとめられ、12月11日（土）までに教区本部事務局へ提出。そして、来年2022年1月10日（月）の教区代表者会議でまとめられていく。

一方で、「長崎教区としては、2022年度に、各小教区・地区・教区でこの質問事項を有効利用しながら、6年前の第1回教区シノドスの公式提言の検証をじっくり行い、新たな小教区・地区・教区づくりを目指そうと思案している」（教区本部事務局長）方向だ。

各教区のまとめは2022年2月28日までにカトリック中央協議会に送られる。その後、22年4月日本司教団のまとめ、23年3月アジアでのまとめ、23年10月バチカンでの総会へと続いていく。

一連の情報などについて長崎教区全体が共通理解・認識を持つには、最初の（小教区単位の）回答期限を考えると時間が十分ではない。しかし今回のシノドスはまさに「共に歩む」というシノドスの言葉の意味の通り、可能な限り皆が2年間にわたるシノドスの「過程」に心を向け、全世界の教会と共に歩んでいくことが望まれる。

シノドスに向けた10の質問

全世界の教区がそれぞれ話し合い回答する10の質問は以下の通りです。各質問には小さな問いがあります。

❶ **旅の同伴者**　皆さんの教会で、「わたしたちの教会」というとき、誰がその仲間でしょうか。逆に、どういう人、またはグループが、教会の周縁部に取り残されているのでしょうか。

❷ **聴くこと**　教会の内部で、また教会外の人々と、わたしたちの教会は、それぞれ誰に対し「耳を傾ける」必要があるでしょうか。何が、耳を傾ける助けと妨げとなるでしょう。

❸ **声に出すこと**　わたしたちの生活の中で、また地域社会やその団体の中で、福音の価値を公に伝える場面がありますか。そのために、何が助けと妨げになるでしょうか。社会に対して、誰が教会を代表して発言しますか。

❹ **祝うこと**　祈りと典礼において、信徒を含め、信者全体はどのように参加しているでしょうか。参加は進んでいるでしょうか、後退しているでしょうか。

❺ **宣教における共同責任**　皆さんの教会では、信仰教育や、社会での奉仕活動の計画は、だれが、どのように決定しているでしょうか。だれが担っているでしょうか。その人たちはどのように選ばれ、どんな養成を受けていますか。それ以外の人たちは彼らを十分に支援していますか。

❻ **教会と社会における対話**　わたしたちの教会で、そのビジョンや方針はどのように話し合われ、決められていますか。近隣の教区、地域の修道会、信徒団体などと、どのような対話と協力をしているでしょうか。信者以外の一般の人々と、どういった対話、協力の経験があり、彼らからどのように学んでいますか。

❼ **他のキリスト教諸派とともに**　皆さんの教会の周辺で、他のキリスト教諸派の兄弟姉妹とどのような関係性をもっていますか。どういった分野に彼らは関心があるでしょうか。彼らとの対話の実りと妨げはなんでしょうか。

❽ **権威と参加**　教会や教区の目標、その達成のための方法、踏むべき段階は、誰が、どのように決定していますか。チームワークと共同責任は、どう実践されているでしょう。信徒の参加はどうでしょう。教区レベルで、共同決定・共同責任を実践する機関はありますか。その実りと妨げはなんでしょう。

❾ **識別することと決断すること**　教会での決定の中で、どのような手順と方法で、わたしたちは共同で識別し、決定を下すでしょうか。どうすれば、それらは改善できるでしょうか。透明性と説明責任を、どのように促進できるでしょうか。

❿ **シノダリティの中で自己形成すること**　教会の中で責任ある役割を担っている人々が、互いに耳を傾け合い対話しながら、「ともに旅をする」教会がさらに成長し、共同で識別と決断できるようになるため、わたしたちはどのような養成ができるでしょうか。何が妨げになるでしょうか。

2021年9月7日発表の「準備文書」から抜粋・改訂版A（カトリック中央協議会）

シノドスのための祈り
Adsumus Sancte Spiritus
（聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立っています）

聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、
あなたのみ名によって集います。
わたしたちのもとに来て、とどまり、
一人ひとりの心にお住まいください。
わたしたちに進むべき道を教え、
どのように歩めばよいか示してください
弱く、罪深いわたしたちが、
一致を乱さないよう支えてください。
無知によって誤った道に引き込まれず、
偏見に惑わされないよう導いてください
あなたのうちに一致を見いだすことができますように。
わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、
真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。
このすべてを、
いつどこにおいても働いておられるあなたに願います。
御父と御子の交わりの中で、世々とこしえに。
アーメン。

教皇さまの意向

・世界　うつ病や燃え尽き症候群に苦しむ人々が、支援を受け、生活を取り戻す光を見いだすことができるように
・日本　すべての死者が神の国で安らかに憩い、遺族には慰めと希望が与えられるように

ほしかげ

海から映っている夕焼けを眺めるとふと奇麗だなと思ってしまいます。自然がもたらしてくれる安定感は一日の終わりを素敵に飾ってくれるような気がします。幸せに満たされて鼻歌を歌います▲奇麗な海を味わうため浜の方へと歩きます。行きついた海は遠いところから見た印象と少し違います。眺めて幸せな匂いがした海は、漂着しもう腐ってしまっているゴミの臭いがし、そのために自然がもたらす美しさが壊れてしまっています。どこから流れてきたのか、誰が捨てたのか、持ち主の分からないゴミたちが私を迎えます。いつからここに流され、捨てられたのでしょうか。海が歌う波の音に耳を任せ、腰をかがめて持ち主が分からないゴミを拾っていきます…。どれくらい経ったのか、日が沈むとゴミたちは恥ずかしいのか暗いところに隠れてしまいます▲私の心の中にある海も同じようなものではないかと暗闇の中に立って考えてみました。遠いところから見ると奇麗に見えるかもしれないけど、実はたくさんの流れてきたもの、自分で捨てた心を自分で溜めてきたのではないだろうか。他の人から見られるのが恥ずかしくて暗いところに隠しているのではないだろうか▲今日も海を眺めて奇麗に映っている夕焼けを見ます。夕焼けが沈む前に神にゆるしを、憐れみを願います。願いが届くように海へ走って行きます。（南）

「…しかし 長崎の教会は死ぬことはありませんでした」　ヨハネ・パウロ2世（1981年）

わたしたちは何を目指すのか⑩

長崎の教会の使命を生きる

お告げのマリア修道会　下窄 優美

私たち長崎大司教区の近年の状況を振り返ってみると残念なことに、悲しいことが多くありました。また2年に及ぶコロナウイルス感染症によって教会においては、主日のミサに集うことや各種の集いも難しくなっています。共同体である教会私たちは、このような状況の中で何を目指してどのように進めばよいのでしょうか。

長崎教区の固有の召命

「私たちは何を目指すのか」と聞いて浮かんだのは「固有の召命」という言葉でした。

私たちは生まれる前から一人ひとり神様に名前を呼ばれ愛されている存在です。神様が私に望み期待しておられる、私だけが果たすことのできる在り方、生き方、それが固有の召命といえるかと思います。

この固有の召命のような唯一無二の召命は、教会共同体にも与えられていると思います。私たちの長崎教区に神様が期待しておられる使命があるはずです。私たちが目指す教会の在り方はまさにそこにあると確信しています。イスラエルの民が神によって選ばれ契約によって「神の民」となったように、長崎の神の民も特別の使命のために選ばれていると思います。

長崎に注がれる神様のまなざし

長崎の教会は日本のカトリック教会の歴史の中で非常に大切な役割を果たしてきました。長崎の教会というよりも長崎という場所で教会の歴史が刻まれてきたというのが正しいかもしれません。私たちはこの地にあって、信仰が宣教師によっていかにして伝えられ、信徒によっていかにして守られてきたかをよく知っています。聖フランシスコ・ザビエルの足跡が残る平戸、イエズス会の宣教のための重要な会議が行われた口之津、日本人司祭育成のためのセミナリヨが建てられた有馬、キリシタンの町としてイエズス会の本部、教会が多く建てられた長崎。そしてそこは迫害が始まると日本26聖人をはじめとした多くの信徒と聖職者の処刑の場、殉教の場として教会の記録に残っていきます。250年の間、いくつかの信仰共同体は、「崩れ」を経験しながらも生き延びていました。そして、1865年の大浦天主堂での信徒発見から浦上の信徒の「旅」、そして帰村へと続く復活教会の出来事もこの長崎を中心に進んでいきました。

復活した長崎の教会は、パリミッション会の宣教師たちの活動により信仰教育だけでなく貧しい人々のための福祉活動にも参加し、その中のいくつかは今も継続しています。やがて浦上には当時東洋一と言われた浦上天主堂が建てられました。しかし、それも1945年8月9日の原子爆弾投下によって全壊しました。ここからまた浦上の信徒をはじめとして長崎の教会は復活に向けて歩みだしたのです。そして、2014年長崎教区は信徒発見150年を「有意義に記念するために」[i]3年かけて準備し、教区シノドスを4期にわたって開催しました。シノドスの提言書は『父の家に帰ろう、そして出かけよう―神のいつくしみを共に生き、伝えるために―』という文書名で公布されました。そこには、長崎の教会が取り組むべきことがはっきりと示されています。これこそ、今私たちがなすべきことです。シノドスを一つの単なるイベントで終わらせてはいけないのです。

忍耐から希望へ

修道会には総会という最高の権威をもつ会議があります。私たちの会も今年1月末から2月にかけて総会を開催しました。ここでは、これから修道会はどのような方向に進んだらよいのか、そのために何をしたらよいのかを祈りのうちに真剣に話し合いました。総会において決議されたことを執行部（総顧問会）は6年（1会期は6年）かけて取り組むことになります。それを果たすために会員がかなりの時間をかけて話し合い、歩き始めています。その過程でだんだん考え方が変わってきたように思います。「こうできたら理想」というぼんやりした考え方から「こうしたらこの目的を達成できる」という、より具体的な取り組みを積極的に考えられるようになったのです。歩みはすでに始まっているのですが、取り組みながら感じるのは、自分の会を愛し、仲間を信頼することの素晴らしさです。私たちは不足の多い集まりであることを自他共に認めていますが、これまでの修道会の歴史を見るとそこに神様が介入してくださったことを認めざるを得ません。そして、現在も聖霊は私たちと共に働いて神の民のために私たちを使ってくださっています。そのための仲間たちも与えられています。この原稿を書いている日曜日、オンラインで、あるいは対面で複数の会議が行われました。会議後はたくさんの反応が寄せられていました。聖霊に主導される会議は進展がないように見えても失望はありません。会議の先に希望が見えているからです。それを実感しています。

身内のことを話すことは日本人の美徳に反するのかもしれませんが、私たちの修道会の経験はそのまま長崎教区にも当てはまるのではないかと思いました。長崎教区の将来に向けて不安要素はすぐに挙げることができますが、希望をもてるようなことを挙げることは簡単でしょうか。カトリックの人口減少で教会の財政状態が悪化、少ない若者は教会に来ない、司祭・修道者の召命がないなどなど、教区シノドスで取り扱ったことが今もまだ問題とされています。

はたしてシノドスの提言は生きているのでしょうか。停滞している、全然進歩がないと嘆きたくなるかもしれませんが、大事なのはこの状態をどう捉えるかです。私は、この状態は長い停滞期の終わりではないかと感じています。神様の摂理だと思うのですが、9月に教皇フランシスコのシノドス（世界代表司教会議）開催の発表がありました。このシノドスのテーマは「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」だそうです。一方長崎教区は「参加し、交わり、宣教する」教区を目指し、シノドスの提言の副題は「神のいつくしみを共に生き、伝えるために」でした。新たにシノドスの準備をしながら先の教区シノドスを振り返る機会が与えられたようです。

長崎の召命を生きるために

繰り返しになりますが、神様から特別に目をかけられ愛されてきた長崎の教会は、その経験とともにとても重要な使命を与えられています。それは、真の信仰の共同体を築くこと、平和のために祈り働くこと、受けた恵みを惜しみなく伝えることです。私たちにはそれを果たすだけの力も与えられています。どれも考えることではなく、行うことです。しかも一人ではなく共同体で行うことです。このために必要なことは回心だと思います。イエス様は「罪の女」と言われる人について「この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない」（ルカ7・47）と言われました。神様の前に自分の罪深さを自覚し、赦される経験こそが回心なのだと思います。聖人たちが自分の罪深さに泣き、顔に涙の溝ができたという話がありますが、それほどの回心の経験をするならば私も教会も社会も変わっていくでしょう。回心を助けるのは祈りです。ヨナの話を思い出します。ニネベの町の人は、人も家畜も断食し神に祈り、災いを免れました。祈りを通して回心したからです。また祈りは私たちを自分自身から解放します。恐れずに私たちの召命を生きましょう。平和のために働き、信じているイエスの福音をこの身をもって生き、伝える者になりましょう。

---

i　シノドス提言書「教区シノドス提言の公布にあたって」

シノドスの準備など確認

教区顧問会

教区顧問会が9月14日（火）、大司教館で開催された。主な審議事項は以下の通り。

まず、福岡コレジオの福岡カトリック神学院への移転の件について審議が行われた。福岡教区の司祭評議会はこの移転を希望しており、司祭・神学生数の減少問題や経済的な問題を少しでも軽減できるとのこと。他の関係教区にもこの問題について話し合うよう求めている。長崎教区顧問会はさまざまな意見や思いはあるものの、この移転に賛成することとなった。

次に、今年度の司祭評議会を10月26日に開催することを決定した。その議案の中で、小教区再編プロジェクトチームからの提案をどのように推し進めていくかが話し合われる。

また、トビア会からの提案で、引退司祭施設運営拠出費の一部として、教区司祭団から一人月々一定額を負担していただくことが了承され、今年10月からスタートする（名称はトビア会費）。

報告事項としては、第16回シノドス（世界代表司教会議）総会について現状報告があり、長崎教区での大まかな準備の行程が確認された。まず、バチカンからの質問状が教区を通して小教区に届けられ、10月17日（日）14時から浦上教会でシノドス開会式ミサが行われる。各地区で代表者会議を行い、12月初めまでに教区本部事務局に質問の回答を提出する。その報告書をもとに来年1月に教区代表者会議を開催し、まとめられたものが2月中旬の定例司教総会で検討されることになる。

他にもいくつかの審議や報告があった。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

建物の役割を見直す

教区施設統廃合検討チーム

『カトリック教報』2021年4月号に掲載した通り、カトリックセンター建物の老朽化と宿泊部門の廃業に伴い、近隣にある大司教館と長崎カトリック神学院とを合わせて、それぞれの機能を見直すこととした。

教区では現在、信徒数の減少、聖職者を目指す若者の減少、教会など施設の老朽化、厳しい財政見通しなど、数多くの課題を抱えている。だからこそ、司祭も修道者も信徒も一体となって今後の検討を進めていく必要がある。

カトリックセンターや小神学校が担ってきた役割・もたらしてきた成果、今後の課題をまとめた資料を作成しているのでそれを読み、それぞれが担ってきた役割や成果を今一度見つめ直していただき、先人たちの思いや成果をどのような形で継承していくのか、何を後の世代に伝えていくべきなのかについて、皆様のご意見を賜わりたい。9月30日（木）の会議を受けての、今後の主なタイムスケジュールは次の通り。

（教区施設統廃合検討チーム）

日　程	内　容
2021年11月	資料の完成と配布
11月～2022年3月	諸委員会、各地区司祭会議、教区評議会役員会、各地区評議会、各小教区評議会、公募などを通して、広く意見を聴く
4月	教区施設統廃合検討チームとして、どの方向性で進めるかを決定
5月上旬	教区評議会総会において、全体への説明
6月中旬	教区顧問会において、方向性を決定

十字架山で道行

司教、司祭ら小人数で祈りささげる

9月12日（日）に長崎市辻町の十字架山で予定されていた殉教祭は、新型コロナウイルスの影響で中止となり、この日は司教、司祭ら少人数が現地に集まって、静かに十字架の道行を行った。

浦上小教区では毎年9月、十字架称賛の祝日に合わせ皆が十字架山に集まり、殉教祭を行っている。今年はコロナ禍の「主日の公開ミサの中止」期間に当たったため、9月12日の殉教祭は中止となった。

このことを受け、浦上教会の司祭らは「信徒のためにも何かできないか」と、司祭だけでのミサを計画したが雨天となり、現地で十字架の道行を行った。時折雨がぱらつく中、浦上教会の4人の司祭と中村倫明司教、フランシスコ会の司祭、修道士、数人の信徒らが共に祈りをささげた。

1873年に禁教の高札が撤去された後、流配先から戻った浦上の信徒たちは、信仰の自由を取り戻した喜びと神への感謝、絵踏みの罪の償いだけでなく、為政者や意に反して迫害に加担した人々の赦しをも願い、1881年にこの地に十字架を立てた。今年は十字架山設置から140年となる。

神との絆を深める時

聖トマス西と十五殉教者記念ミサ

9月26日（日）午後2時半から、中町教会で聖トマス西と十五殉教者の記念ミサが行われた。新型コロナウイルスの感染対策から昨年に引き続き、長崎南地区ではなく中町小教区主催となった。

ミサに先立ち、中町教会境内の聖なる16人の顕彰碑に高見三明大司教が献花と祈りをささげた。信徒らが『聖トマス西と十五殉教者の玄義によるロザリオの祈り』を唱え、感染防止のため、聖歌隊のみが聖歌をささげた。その後聖堂内に移動して、高見大司教、中村倫明補佐司教らの共同司式で記念ミサが行われた。

大司教は説教の中で、聖トマス西神父と一緒に殉教した聖ヨルダノ神父について話し、「聖ヨルダノ神父様はイタリアのシシリア島の生まれで、ドミニコ会の司祭です。禁教令下で迫害が厳しさを増した長崎に上陸し『鳩は翼を休める足場がない』と手紙に書くほど苦労して宣教されました。しかしついには捕らえられ、ひどい拷問を受けた後、西坂で穴吊りの刑により殉教されました。（中略）殉教者がつらい生活や苦しい殉教を貫き通すことができたのは、常に神様とつながっていたからです。コロナ禍など、問題がある時にこそ、私たちはまず神様に心を向け、神様との絆を太くし、温め、深めるべきです」と諭した。

参加者の一人は、「コロナ禍の中、久々に聖歌が響き、ミサにあずかる喜びを感じる殉教祭となりました」と語っていた。

郷土史家 越中哲也さん 逝去

長崎学の研究と普及に貢献

訃報を受け、田上富久市長は哀悼の意を表すとともに、「くんちや精霊流しのユーモア溢れる解説や長崎弁の軽妙で分かりやすい講演は、今も多くの人の心に残っていることでしょう」（抜粋）とのコメントを発表した。

2019年3月には、発足当初から越中氏が理事長を務めていた長崎歴史文化協会が37年の活動を終えたが、一般紙によると、同協会による「長崎学を学ぶ講座」の最終回において、自身が郷土史に触れることになったきっかけや同協会発足の経緯、結城了悟神父（イエズス会）、マリア観音を調査した思い出などを語り、参加者は楽しそうに聞き入っていたという。今年3月、長崎純心大学から名誉教授の称号が贈られた。

写真は17年2月5日、日本二十六聖人記念館の初代館長・結城師の記念碑の祝福式での1枚。越中氏は、高見三明大司教と当時の館長デ・ルカ・レンゾ師と共に除幕した。

面識がなくとも思わず「越中先生」と呼んでしまうような親しみやすさがある方だった―。長年にわたり長崎学の研究と普及に尽力し貢献した郷土史家の越中哲也さんが9月25日、老衰のため長崎市内の病院で亡くなった。99歳だった。

すべてのいのちを守るための取り組み

身近なところからできることを

修道院と地域―上五島

お告げのマリア修道会桐修道院では、すべてのいのちを守るための取り組みの一つとして、地域の海浜清掃を今年の6月から毎月1回行っています。6月から8月は熱中症の心配があるため修道院の5人で行い、9月からは信徒にも呼び掛け、9月20日（月）漂着した海洋ごみを拾い集めて清掃しました。

同じ日、「上五島ふるさとガイドの会」有志10人が、美しい上五島の海をお客様にお見せしたいとの思いから桐地区の海浜清掃を行いました。10月は同会と一緒に実施する予定です。また、地区のお知らせ『郷のたより』には桐地区の海浜清掃と長崎大司教談話「神の住まい、地球共同体を一新しよう」が紹介されるなど、環境保護のための教皇の思いと心を合わせての取り組みは少しずつ広がりを見せています。

これからも「SDGs（エスディージーズ）14海の豊かさを守る」ことを意識しながら活動を続けていきたいと思います。

「この自然は未来の子どもたちからの預かりものであることを深く悟り、新しい普遍的な連帯を生きることができるよう私たちを導いてください」（2019『日韓修道女の祈り』から）

お告げのマリア修道会
桐修道院

地域の皆で「海の豊かさを守る」活動

信者ら有志―長崎

9月20日（月）高見三明大司教の発案により「すべてのいのちを守るための月間」の取り組みとして、大司教をはじめ信者ら有志が共に、長崎市伊王島町の海岸で清掃活動を行った。

当日は馬込教会の信徒の方々を中心に、司祭団、小神学生、時津・中町教会の方々など老若男女を問わず70人超が、強い日差しの中、午後1時半から約2時間、海岸清掃に汗を流した。

参加者は海岸に流木や網、砕けた発泡スチロール、ペットボトルやライターといったさまざまなごみが想像以上に打ち上げられていることに驚き、特に土に還らないプラスチックごみを中心に集めて回った。

参加者の一人は、「大司教様が言われていたように、一つ一つの活動は世界から見れば小さな事かもしれないが、その小さな愛の活動が愛の大海を作りあげていることを忘れずに普段から生活していくことの大切さを感じました」と話していた。

漂着した流木を運ぶ参加者ら

第7期 諸委員会活動

情報共有を図り、進める

教区諸活動部門はこの春から第7期に入っているが、このたび、第12回委員長会議が10月14日（木）大司教館で開催された。佐世保や上五島など遠方にいる委員長は新型コロナウイルス影響下のためオンラインでの参加。主な議事は以下の通り。

まず、第7期に入って新しくなった11委員会のメンバー（委員長・副委員長・委員・協力者）を確認。また、第7期委員会規則について討議し、任期などを見直した。

次に、第7期活動計画について各委員会から発表。まだ、計画を検討中の委員会もあり、12月までには全委員会の活動計画がそろう予定。

現在、各委員会の活動は行事などの中止・縮小の影響を受けているが、引き続き委員会間の情報共有を図りながら活動が進められていく。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●小島キヌエ様（時津）
故フランシスコ
小島利昭様
●中村与衛様（福江）
故マリア中村ヤエ様
●濵口秋光様（出津）
故アグネス濵口ハル様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

CALIS Catholic Life Service

カリス通信 11月号

カトリック学校に関わるリスクと保険

カリスでは、カトリック学校の皆様に各種学校に関わるリスクと保険をご提案しております。学校を運営する側のリスクで多いのが、学校施設の欠陥を原因として児童・生徒にケガを負わせてしまうリスクです。しかし、昨今の学校に関わるリスクも複雑化し、従来からある施設に関わるリスクに加え、いじめ、試験の採点ミス、職員のパワハラ、アカハラ、児童・生徒へのセクハラといったニュースが新聞紙面に載る機会が増えてきています。今回は、そのような新たなリスクに備える保険についてご紹介いたします。

＜学校教育活動賠償責任保険＞

本保険は、学校教育活動の遂行または侵害行為(*)に起因して、学校（被保険者）に対して損害賠償請求がなされ、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して保険金をお支払いする保険です。

(*) 侵害行為とは、パワハラ、セクハラといったハラスメントやいじめ等の行為をいいます。

＜学校教育活動に関する事故事例＞

- 学校が生徒間のいじめを把握できず、いじめられた生徒が転校してしまった。被害生徒から精神的苦痛を受けたとして、損害賠償請求をされた。
- 卒業試験の採点ミスで、本来合格とすべき学生に対し、不合格の通知を行っていたことが発覚した。留年を余儀なくされたとして、保護者から損害賠償請求をされた。
- 部活動の学生が、顧問の先生からセクハラにより精神的苦痛を受けたとして、学生とその保護者から損害賠償請求をされた。

安全対策、危機管理を講じていても事故は発生します。カリスではカトリック学校の危機管理に関わるリスクと保険についてご案内しておりますので、ご相談ください。

※本ご案内は「学校教育活動賠償責任保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、学校教育活動賠償責任保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。

カトリック共済システム 有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館　連絡先 0120-77-0033　カトリック共済システム 検索　21-TC04971　引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社　リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店 長崎市城栄町13-1
大村店 大村市赤佐古町287番地
HP http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

「信者さんのお店ご紹介！」

コロナ禍、佐世保地区でパンフレット作成

新型コロナウイルスの影響下、今年8月、佐世保地区で「Go To Community! 信者さんのお店ご紹介！」と題するカラーA5判32頁のパンフレットが作成され、同地区の信徒世帯に配布された。発行元はカトリック教会佐世保地区共同体。表紙（上段の写真㊨）の裏面（同㊧）には佐世保地区長・山内 実師による案内文が掲載。山内師は、信徒の方々からのパンフレット作成の提案を歓迎するとともに、「『福音宣教』が叫ばれている中、『信仰の呼び掛け（お祈り・支え合い）』はもちろんのこと、日常生活の面でもお互いがつながりを求め、深め合っていくということは、なおのことイエスの宣教活動（期待）に応えていくことになるのではないでしょうか」との言葉を寄せている。今回の企画について、関係者の方に寄稿していただいた。

お店の情報が満載のパンフレット

情報交換の助けに

佐世保地区には、各教会の司祭、議長、OB、有識者を含む会員70人ほどから成る「セルブス会（奉仕する、奴隷の意）」があり、年3～4回都合が合う人たちが集まって、会食をしながら勉強会を兼ね、親睦を深め、絆を強めています。毎回30人ほどが集まって各小教区の悩みを言ったり聞いたりし、和やかで有意義な時間を過ごし、皆様にも大変喜ばれています。

しかしここ2年ほどコロナウイルスが発生してからは、3密を避けるため、悔しいけれど、自粛生活を余儀なくされております。悔しい思いをしているのは我々だけではなく、教会巡礼者はもちろんのこと、観光地や飲食店には閑古鳥が鳴き、商いをする信者さんたちの中にも倒産や廃業する人たちが決して少なくないと聞いております。

そこで佐世保地区評議会は、同じお金を使って買い物をするのであれば、信者さんが経営する会社やお店に注文して、少しでも手助けすることができればと話し合いました。幸いなことに昨年から、予算化していた行事がほとんど中止となっているので、そのお金を有効に使ったらという地区長神父様のありがたい勧めもあり、「信者さんのお店ご紹介」というパンフレットを作ることにしました。

信者さんが経営するお店や会社も多種多様で、中には効果を疑問視する人たちもあり、短時間に多くの賛同者を得ることに無理もありましたが、三浦町教会と俵町教会の有志の方々が中心となり資料集めに東奔西走しました。

そして約1年の努力のかいがあり、今年の8月に完成し3000世帯に配りました。佐世保地区は14小教区22教会があり、広範囲になるので利用するのに難しい面もありますが、信者同士が情報交換をして有効に活用し、数年後には皆さんに喜んでもらえる結果になればと願い祈っております。

相浦教会所属　山内 茂雄

みことばにふれて 185

稲田 祐馬 神父
（長崎教区司祭、福江教会）

「自分が信仰を生きるのではない。信仰が自分を貫くのだ」。コロナ禍の折、読んだ本で出会った言葉です。その本では熊沢蕃山という儒学者に触れられていて、筆者は、儒学者の用いる「志」という言葉は「信仰」を意味していたと、それを踏まえて先の文章で蕃山の思いを表現しています。私が信仰を生きるのではない、信仰が私を貫く、これは私たちにとっても大事なことのように思えます。

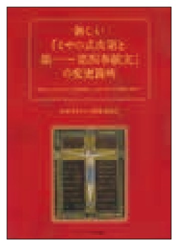
信仰、希望、愛、この三つを「対神徳」と教会は教えます。すなわち、この三つは自分の力ではどうしようもなく神様あってこそなのだと。私が信仰しているように思うわけだけども、しかしそれに先んじて神様からの恵みがあってこそなのだ、というわけであります。私たちの信仰も、そしてまた召命も神様のお恵みが先んじてあるわけです。というわけで、自分もまた信仰に貫かれている、そう思うと何か、霊的なものに触れることができたような、不思議な気持ちになります。そしてそれは、言葉にできないかもしれないけれど、誰しもが経験している感覚だろうと思います。今、読んでくださっているところから一呼吸おいて、私が信仰を生きるのではなく、信仰が私を貫いている、そう心の中でつぶやいてみると、すっと胸がすくような感じがするかもしれません。こわばった心に聖霊の風が吹いてくださったような。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です」（エフェソ2・8）

信仰によって救われたと言われると、私にそんな大層な信仰なんてないと思ってしまいますが、これまで述べたように信仰は対神徳であり、信仰のほうから私を貫くわけですから、まさに自分の力によるのではなく、神様の賜物です。だからといってもちろん、私たちのほうから何もしないでいいというわけでもありません。今、私が仕えている主任神父様から「二足歩行」という表現を教えていただきました。一方は神様の足で、一方は私の足。神様が先んじて踏み出してくださる一歩、それに応えるように私たちも一歩踏み出して歩んでいくんだと。

信仰もそうだし召命もそうです。「神父（シスター）になりたいかも！」湧き出てくる思いは神様が先に踏み出してくださった一歩かもしれません。それに応える一歩を、家族をはじめ、陰ながら励まし祈ってくださる方々がいるからこそ、神父、シスターが誕生するのでしょう。

新刊良書



★新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所――2022年11月27日（待降節第1主日）からの実施に向けて

編集＝日本カトリック典礼委員会

2022年の待降節第1主日から開始される『ローマ・ミサ典礼書』ラテン語規範版第3版に基づくミサの実施に向け、式文の変更箇所に対する学びと理解のために編まれた冊子。変更箇所は太字で示され、脚注の形式で解説が付されている。ミサに参加するすべての信者にとって必携の一冊。カトリック中央協議会、税別260円。

お知らせ

〈新しいファックス番号〉

愛野教会のファックス番号が変わりました（電話番号と同じ）。

FAX 0957－36－7577

短信

〈コロナ感染防止の対応〉

9月22日中村法道知事は、県下全域での感染段階を9月25日からステージ2へ引き下げ、佐世保市に対する県独自の緊急事態宣言を9月24日までで解除すると発表した。これを受け長崎教区は、「9月いっぱい主日の公開ミサを中止」としていた佐世保地区でも9月26日から「再開」することとし（同地区を除く教区内での主日の公開ミサは9月19日から再開されていた）、また、「主日ミサの参加義務の免除」は10月31日まで継続されることとなった（9月24日付）。その後、同免除は11月28日までの継続が決まった（10月22日付）。

レオカディア 宮崎スヱ子修道女（純心聖母会）

10月7日、ベタニア修道院で逝去。83歳。

長崎市生まれ。高校入学から学生志願生として入会。1962年初誓願。70年終生誓願。初誓願後、幼稚園教諭として長崎・広島など同会の幼児教育の場で、子どもたち、保護者、教会との関わりの中で8年間宣教に励んだ。

その後体調を崩し療養していたが、72年から法人や学校事務に携わり、書類や記録などの全般をまかされ、事業所や会の歴史については「生き字引」といわれるほどの存在だった。また、書道の達人で神学生の講座をお手伝いしたり、依頼されたものを美しい筆跡で仕上げたりなど奉仕を喜びとした。2016年ベタニア修道院に派遣、副院長として姉妹たちに温かい配慮で接し親しまれていた。

10月7日午前5時、急性心臓死のため御父のみもとに召された。

ぶどう園

▼遠藤周作没後25年記念企画展「遠藤周作 母をめぐる旅―『沈黙』から『侍』へ」開催中　2022年3月24日㈮まで（休館日は12月29日～1月3日）、遠藤周作文学館。

▼「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界文化遺産登録3周年記念展　①11月14日㈰まで開催中（会期中無休）、長崎歴史文化博物館。長崎県主催。②12月4日㈯～12月24日㈮（月曜休館）、大村市歴史資料館。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」保存活用実行委員会主催。

▼自死された方々のためにささげる追悼ミサ　11月23日㈫14時、西坂・聖フィリッポ教会。ゆりの会主催。教区人権委員会協力。連絡先・（鳥巣シオリ）TEL 090－9488－7931

2022年 家庭委員会カレンダー 「ともにあゆむ」販売中

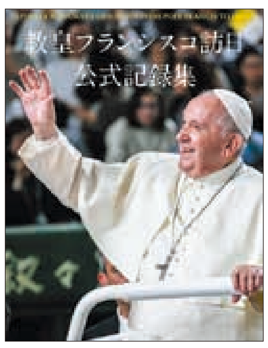
教区家庭委員会は2022年カレンダーの販売を10月から開始した。販売方法は各教会での取りまとめを基本とするが、教会での購入が難しい場合などは、家庭委員会に相談することができる。

「ご自分の家庭から子や孫の家庭へ、このカレンダーをお届けいただき、信仰伝達・福音宣教の道を、親子でともに、教会とともに更なる歩みができますようにと願っております」（家庭委員会）

1冊、税込800円。送料・振込手数料は別途かかる。お問い合わせは（TEL 095－842－4450）担当・辻まで。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ドミニコ　溝口悦雄
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380

教皇フランシスコ訪日公式記録集
2019年11月に実現した教皇フランシスコの訪日。興奮と感動と喜びに包まれた4日間を詳細に伝える唯一の公式記録集。貴重な写真500点以上とともに、講話のテキストもすべて収録。また、訪日決定に至るまでの経過や、各行事、各典礼の規模や人員などのデータも詳細に伝える。
著者　カトリック中央協議会出版部（編）
発行日　2021年6月10日
A4変型判上製・280頁
オールカラー
本体価格　4,500円（税込4,950円）
ISBN 978-4-87750-230-0
詳細は『記録集』特設サイトをご確認ください。
https://www.cbcj.info/popeinjapan2019book/

石碑　文字彫刻　墓地工事　リフォーム　墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町23-17　立岩公園前

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ　平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり